

平成 26 年度活動結果概要報告



平成 27(2015)年 3 月
男女共同参画推進室 室長
塩満典子

平成 25(2013)年 10 月より、JAXA も文部科学省科学技術人材育成費補助金を得て「女性研究者研究活動支援事業」を開始し、現在、他の 94 機関とともに同事業を推進しています。3 年間の本事業を通じて、子育て・介護期の男女の支援を行い、ライフイベントを原因とする離職防止、ワーク・ライフ・バランスの確保、十分な能力発揮を通じて、男女共同参画と人材活用を推進し、宇宙航空分野の更なる発展に努めることを目指しています。

宇宙航空分野では、ロケット開発、衛星運用、追跡管制、宇宙探査などを行う女性研究者(研究員・開発員・教員)は少数でしたが、近年、その割合は増加する傾向にあります。活動開始前の平成 25(2013)年末時点で、当機構における女性研究者の在籍割合と採用割合は 8.7%、13.5%ですが、これらの数値を補助事業期間終了後の平成 28(2016)年 3 月には 12%以上、18%以上に増加する目標を掲げています。本事業は補助金事業のプログラム名称が示すとおり、女性研究者の研究活動支援が主目的ですが、JAXA においては組織的に包括的・効果的な支援を目指し、男性研究者、事務系職員も含む全職員を対象にしています。このため、現在の常勤職員に占める女性割合(15.8%)、女性管理職割合(3.4%)の向上も事業目標に含んでいます。採用や管理職登用における女性割合の向上については、単なる数字合わせのポジティブ・アクションではない、実力を伴うメリット・システムの構築が重要との認識に立ち、女性研究者については特に、リーダーシップの発揮に向けて、効果的な研究資金獲得力、マネジメント力を高めるための支援策を講じてまいります。

このため、初年度より、置き去り感や不公平感のない、ニーズに応じたきめ細かい支援を行うこととして、全職員を対象に(1)安心して出産・子育て・介護を行える環境の整備、(2)働き方の見直しによるワーク・ライフ・バランスの実現を推進してまいりました。また、特に数の少ない女性研究者の支援として、(3)研究開発力・組織マネジメント力の向上と能力発揮、(4)採用・登用の拡大、意識啓発、(5)女性ロールモデル

の見える化と女子学生・院生との交流機会の拡大を図っています。さらに、産学官連携や国際的な取組として、(6)内外連携の推進、相互協力ネットワークの形成を進めております。

本事業の推進に当たっては、効果的なPDCAはもとより、JAXAの最先端のプロジェクト・マネジメント経験を生かし、スコープ、タイム、費用、品質、リソース(人・物・資金・情報)、コミュニケーション等の分野を統合的に進捗管理し、マイルストーンごとの成果が明確かつ社会的価値の高いものになるように努めるとともに、業績評価手法の開発にも取り組んでおります。

平成 26(2014)年度においても、女性研究者のキャリア形成にとって最大の難関である「仕事とライフイベントの両立」を重視して事業の推進を行いました。研究支援員の配置については、事業開始当初より、突発的なライフイベント対応のみでない常勤的な支援員の雇用や被支援者と支援員の同時勤務の要望が多くありました。その後、平成 27(2015)年 2 月からは、文部科学省と科学技術振興機構(JST)のご理解もいただき、被支援者との同時勤務による研究支援員の配置が可能になりました。今後は、外部資金・自己資金を得て、常勤的雇用やチーム支援の要望にも応えてまいりたいと考えております。また、かねてより職員ニーズの大きい病児・病後児保育支援について、他大学の優れた先行事例にならない、「病児保育・病後児保育ベビーシッター費用補助制度の試行」を進めることが可能になりました。

今後は、アンケート分析、交流会の開催、相談窓口の運営等を通じ、ニーズを更に的確に把握し、より多くの職員が利用できる制度にしていきたいと思います。

また、来年度に向けて、ワーク・ライフ・バランスのより一層の確保、子育て支援のための制度活用の対象拡大に係る規則整備を進めています。さらに、40 歳代以降は男女ともに介護ニーズも高まることから、介護支援のための新たな施策を進めるとともに、ICT 活用によるテレワークや在宅勤務などの推進も重要と認識しています。

研究開発力・マネジメント力の向上においては、当室主催の科研費獲得セミナーや JST 資金制度説明会等を通じたサポートにより、女性研究者の科研費獲得額の増大(24 年度から 26 年度 3.4 倍)、男性研究代表者のもと、女性研究者が参加又は支援した JST「戦略的創造研究推進事業(CREST)」、「研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)」等の採択という成果も上がっています。リーダーシップ講演会も米国大使館のご協力を得て、10 月 1 日に米国大統領府予算管理局(OMB)の女性リーダーをお招きして開催いたしました。

さらに、内外のネットワークの構築に向けて、日本政府の「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム」、シャイン・ウィークス公式サイドイベントとして、平成 26(2014)年 9 月 11 日、宇宙・航空業界全体で男女共同参画の意識を高め、関連する活動を促進することを目的として、三菱みなとみらい技術館において、シンポジウム「女性が拓く宇宙航空の夢と未来」を開催いたしました(103 名参加)。また、同年 12 月 3 日には東京国際交流館メディアホールにおいて、APRSAF(アジア・太平洋地域宇宙機関会議)-21 のサイドイベントとして、我が国の地球規模課題解決型の国際科学技術協力プログラム(JST SATREPS)の紹介とともに、我が国のみでなく、米国、モンゴル、オランダ、カザフスタン、ロシアで活躍されている方々からも応援スピーチをいただくなど、グローバルな連携を目指して「日本で・アジアでつながろう:宇宙航空分野の女性の活躍推進に向けて」を開催いたしました(60 名参加)。オランダからは、国際ネットワークにも積極的に取り組んでいらっしゃる国際宇宙法学会長をお招きし、男女共同参画外部有識者アドバイザリー委員のご参加を得て、示唆に富む意見交換を実施することができました。

また、次世代の女子の宇宙航空分野への進路支援として、4 月の筑波宇宙センター、7 月の相模原キャンパスの一般公開に合わせて、JAXA 職員による仕事と生活を語る会を開催しました。小会議室に入りきれないほどの、幅広い世代の参加者の方々が熱心に耳を傾ける姿が印象的でした(各会場:304 名、524 名)。また、10 月には長崎で行われた飛行機シンポジウムの機会を活用して、研究の醍醐味や若者へのメッセージを伝える試みも行っております。さらに、女性がいきいきと活躍する姿をより一層可視化するためのロールモデル誌「Women@JAXA」の創刊・発行、ロールモデル集「宇宙航空の未来を拓く女性たち」の発行を進めました。

今後は、これらのイベントの発展、国内外、世代、分野を超えたグローバルなネットワークを積極的に行い、継続的・機能的な絆の形成、共通・個別課題の解決に貢献してまいりたいと考えております。

平成 25(2013)年 9 月に JST の審査を経て採択され、同年 10 月より申請書に沿って事業を推進し、短期間でマイルストーンごとの成果を概ね上げてきました。しかしながら、採用・登用については、掲げた数値目標の達成に遅れが生じています。最終年度の終了時までには、申請書に明記される女性研究者の在籍率 12%以上、採用率 18%以上、教授職相当職の 1 名以上の採用という目標を達成するため、進捗の遅れの要因分析を科学的に行い、効果的な PDCA 施策を講じてまいります。

是非、男女共同参画推進室のホームページなどをご覧いただき、今後の当室の取組の一層の推進に向けてご意見をお寄せいただけましたら幸いです。

【活動の目的・体制】

独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)は平成 25 年度より文部科学省の「女性研究者研究活動支援事業【一般型】」に参加し、平成 25(2013)年 10 月に男女共同参画推進室を設置し、男女共同参画を推進する活動を実施しています。平成 26 年度は、3 年間の同事業推進期間の 2 年目として事業計画に沿った活動を進めるとともに、男女ともにいきいきと働ける職場を目指し、JAXA として改善すべき項目をアンケートや室員の意見などから抽出し、対策に取り組んでいます。

1. 1 活動の目的

理事長のリーダーシップのもと、支援室を設置し、専任のコーディネーターを配置します。「人材育成委員会」において、採用・登用促進のための数値目標の設定、基本方策等の策定等を行うとともに、PDCA サイクルで進捗状況のフォローアップを行います。具体的な活動として、①育児・介護期間中の研究者を擁するチーム等のパフォーマンス維持のための支援員の配置(延べ年間5名程度)、②フレックス・短時間・在宅勤務や復帰支援の制度整備、③夜間・休日保育、病児・病後児保育、学童保育のためのサポート制度の活用、④研究開発力向上のためのメンター活用・研修、⑤男女共同参画の意識啓発セミナー、⑥女子学生等を対象にした進路支援等を行います。

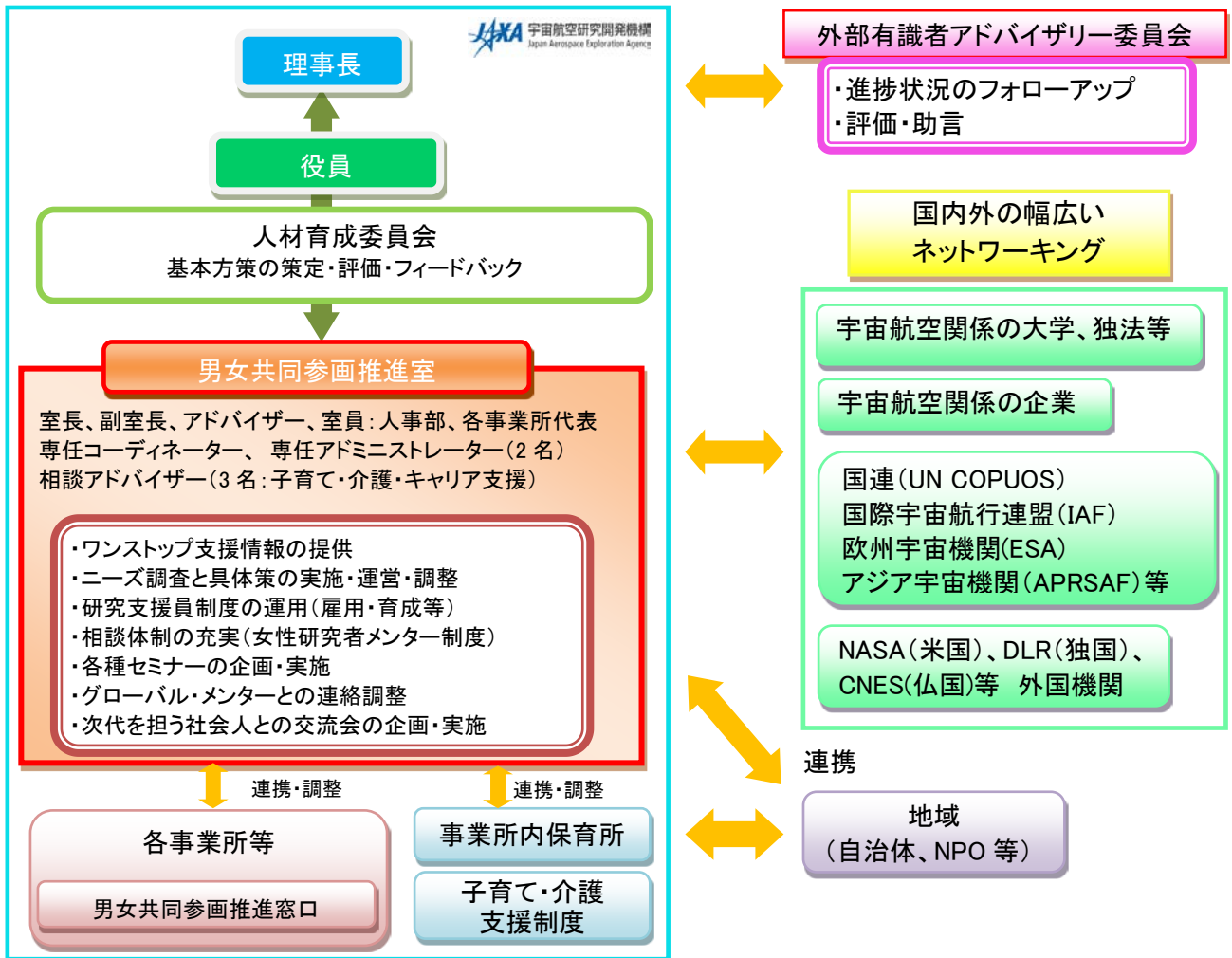
1. 2 達成目標

「女性研究者活動支援事業【一般型】」の適用期間である 3 年間の活動後の達成目標は以下のとおりです。なお、活動開始前の平成 25(2013)年 3 月時点の女性研究者の在職比率:8.7%、採用比率:13.5%でした。

| 数値目標 | 達成のための方策 |
|-------------------|--------------------------------------|
| 採用・登用の目標 | |
| 在職比率を 12%以上 | 採用率・離職率の改善 |
| 採用者比率を 18%以上 | 「同等の能力では、女性優先」の方針。支援環境・制度の広報。公募方法の工夫 |
| 教授相当者の採用(現状ゼロ) | 募集/審査方法の工夫 |
| 子育て・介護による離職率をゼロ | 支援体制・情報の整備 |
| 研究開発力の向上 | |
| 競争的研究資金獲得額を2倍以上 | 研修体系の強化、メンター制度、セミナー等 |
| 論文投稿等の件数を 1.5 倍以上 | |

1.3 実施体制

活動を実施するための体制を以下のとおりです。



(1) 室員構成

室長、副室長、室員はJAXA職員で構成しております。平成27(2015)年3月1日現在の室員は36名(室長1名、副室長1名、東京事業所4名、筑波事業所6名、相模原事業所4名、調布事業所4名等)です。

平成27(2015)年3月1日現在の専任コーディネーター、専任アドミニストレーター、専任アドバイザーは以下のメンバーです：

- ・コーディネーター 真田智子 (平成26年12月1日～)
- ・アドミニストレーター 常田道恵 (平成26年8月1日～)
- ・アドミニストレーター 高橋真美 (平成26年11月1日～)
- ・相談アドバイザー(子育て・介護) 久次奈美 (平成25年12月1日～)
- ・相談アドバイザー(研究・交流) 菅原香代子 (平成25年12月1日～)
- ・相談アドバイザー(制度) 原陽介 (平成26年2月1日～)

(2)外部有識者アドバイザー委員会

平成 26(2014)年 10 月 19 日に「男女共同参画外部有識者アドバイザー委員会」を設置しました。構成メンバーは以下のとおりです。同年 11 月 19 日に第1回委員会、平成 27 (2015)年 3 月 13 日に第2回委員会を開催いたしました。

・JAXA 男女共同参画外部有識者アドバイザー委員会委員

委員長:

名取 はにわ氏 公益財団法人人権擁護協力会 理事
(元内閣府男女共同参画局長)

委員:

市原 健一氏 つくば市長
鹿嶋 敬氏 実践女子大学教授(内閣府男女共同参画会議議員)
佐々木かをり氏 (株)イー・ウーマン代表取締役社長
藤井 浩美氏 日本電気株式会社 コーポレートコミュニケーション部長代理
兼CSR・社会貢献室長
三浦 春政氏 独立行政法人物質材料研究開発機構 理事
水本 伸子氏 株式会社IHI執行役員
宮浦 千里氏 国立大学法人東京農工大学教授・副学長

【主な活動実績】(時系列・項目別)

3.1 環境整備等

- 6月28日 男女共同参画推進室社外向けホームページ(HP)開設
- 7月 1日 室員の追加・変更任命
- 8月 1日 事務局員(調布)着任
- 8月29日 Women@JAXA 第1号発行
- 9月30日 男女共同参画推進室社外向けHP英語版開設
- 10月24日 男女共同参画推進室社内向けHP開設
- 11月 1日 室員の追加指名
- 11月 4日 事務局員(相模原)着任
- 11月19日 第1回男女共同参画外部有識者アドバイザリー委員会の開催【筑波】
- 11月24日 Women@JAXA 第2号発行
- 12月 1日 コーディネーター着任
- 1月26日～2月20日 男女共同参画アンケート調査実施
- 1月26日、29日 ベビーシッター派遣内部説明会実施
- 2月 1日 病児・病後児保育支援開始
- 2月 9日 研究支援員の配置(2名)
- 2月27日 Women@JAXA 第3号発行
- 3月10日 「宇宙航空の未来を拓く女性たち」ロールモデル集発行

3.2 交流会・セミナー・シンポジウム等

- 4月14日 グローバルネットワーキング Gender Equality Office 情報交換会【東京】
- 4月15日 'グローバルネットワーキング(WIA-Europe)'に関する情報共有【東京】
- 4月19日 筑波宇宙センター特別公開 男女共同参画推進室ブース
「目指せ！JAXA～理系女性職員が語る私の仕事～」【筑波】
- 5月 8日 理事長・副理事長ラウンドテーブル【東京】
- 5月 9日 JST 資金制度セミナー【相模原(メイン会場)・筑波・調布・東京】
- 6月16日 西川副大臣・あべ議員との意見交換会【東京】
- 7月25日、26日 相模原一般公開 男女室ブース
「理工系職員が語る私の仕事」【相模原】
- 7月28日 科研費獲得セミナー【調布】
- 7月30日 WIA 等グローバルネットワーキング、情報交換会合【東京】
- 8月25日 宇宙科学研究所長とのランチミーティング【相模原】
- 8月25日 研究力向上セミナー【相模原(メイン会場)・筑波・東京・調布】
- 9月 3日 外部資金獲得セミナー【相模原(メイン会場)・筑波・東京・調布】

- 9月11日 シェインウィークス・公式サイドイベント
「女性が拓く宇宙航空の夢と未来」シンポジウム【三菱みなとみらい技術館】
- 10月 1日 米国における男女共同参画ダイバーシティのある職場とリーダーシップ講演会【東京(メイン会場)・筑波・相模原・調布】
- 10月 7日 科研費応募講座【調布】
- 10月10日 飛行機シンポジウム キャラバン
「空で羽ばたく～研究者と語る仕事と生活～」【長崎ブリックホール】
- 10月27日 子育てセミナー、ラウンドテーブル、介護セミナー【筑波】
- 10月29日 科研費相談【相模原】
- 11月 7日 子育て支援に係るランチ会合【調布】
- 11月17日 子育て支援に係るランチ会合【東京】
- 11月18日 子育て支援に係るランチ会合【相模原】
- 12月 3日 APRSAF-21サイドイベント
「日本で・アジアでつながろう:宇宙航空分野の女性の活躍推進に向けて」
【東京国際交流館(プラザ平成)】
- 12月 4日 オランダと日本のワーク・ライフ・バランス比較に係る国際対話
【東京(メイン会場)・筑波・相模原・調布】
- 2月16日 キャリア交流会～先輩職員とキャリアについて語ろう～【相模原】
- 2月27日 JST 資金制度説明会【相模原】

3.3 裾野拡大・その他

- 7月 3日 ダイバーシティ・サポート・オフィス(DSO)
平成 26 年度総会・懇話会・交流会参加
- 7月11日 化学学会主催「女性技術者フォーラム」参加
- 8月27日 ネットワンシステムズ(株)訪問
- 9月 4日 つくば市男女共同参画室訪問、病児・病後児保育打合せ
- 9月16日 日刊工業新聞取材
- 9月18日 兵庫県立大学明石看護キャンパス講演
- 9月19日 AERA 取材
- 9月29日 IAC【トロント】 WIA 関連朝食会参加
- 9月29日 山梨大学出張、講演
- 9月30日 躍進する女性とそのリーダーシップ参加
【国連大学ウ・タント国際会議場3F/政策研究大学院大学講義室 L5】
- 10月 1日 ハーバード大学ハイフェッツ教授面談【ボストン】
- 10月 2日 JPL との打合せ【カリフォルニア】
- 10月 4日 男女共同参画学協会連絡会パネルディスカッション参加
【東京大学講堂】

- 10月16日 アジア婦人友好会による相模原キャンパス見学サポート
- 11月 1日 「学術研究における女性－学術のダイバーシティを求めて」参加
- 11月 2日 第55回日本熱帯医学会・第29回国際保健医療学会合同大会
＜男女共同参画ミニシンポジウム＞パネリスト参加
- 11月25日 つくば大学主催「女性研究者活動支援事業」交流会参加
- 11月26日 文科省主催「女性研究者研究活動支援事業シンポジウム2014」
参加【一橋講堂】
- 12月 2日 電気通信大学シンポジウム参加
- 12月 5日 茨城県・常陽リビング取材
- 12月13日 芝浦工業大学男女共同参画推進シンポジウム参加
- 12月16日 北養会つくばスワン保育園の説明
- 12月23日 東京医科歯科大学「地域とつながって研究者の研究力を高めよう」
パネリスト参加
- 1月13日 聖徳大学講演会講演
- 1月24日 杏林大学シンポジウム参加
- 2月20日 相模原市男女共同参画室訪問
- 3月20日 化学工学会第80年回参加【芝浦工業大学】(予定)
- 3月27日 京都府立大学講演会参加(予定)

この他に、他大学・独法等との女性研究者等との打合せ会合を通じて、競争的資金に係る情報交流・連携関係の構築を行っています。

また、上記活動項目の横断的事項として全職員対象アンケート調査(1月26日～2月20日)を実施するとともに、平成26(2014)年4月から平成27(2015)年2月末まで、合計26回の定例会合及び合計6回の全体会合(下記)を開催し、運営方針、企画案、今後の予定と進捗状況の確認など室員間の意見交換・情報共有を行いました。

平成26年

- 5月15日 第6回全体会合
- 7月22日 第7回全体会合
- 11月12日 第8回全体会合

平成27年

- 1月22日 第9回全体会合
- 2月 9日 第10回全体会合
- 3月 9日 第11回全体会合